

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171600287		
法人名	有限会社 エスランケア		
事業所名	グループホーム ささゆり (北ホーム)		
所在地	岐阜県 瑞浪市 南小田町 3丁目300番地		
自己評価作成日	平成27年8月1日	評価結果市町村受理日	平成27年11月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2015_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2171600287-00&PrCd=21&Versi.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成27年9月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

国道から一步入ったところにあるため、交通の便は良いが交通量の少ない地域なので、安全に散歩をしながら季節の移り変わりを味わうことができ、途中畑で農作業中の奥さんに野菜をいただくことが度々ある。また、職員にねぎらいの言葉をかけられることもある。

週1回の医師による訪問診療があり、とっさの怪我の場合には隣接の接骨院に相談に行ける。入居者はADLの低下防止のために接骨院の機能訓練指導員と共に、体操やリクレーションを楽しんでいる。中から入居者の歌声と共に笑い声が頻りに聞こえて来る。

また、代表者がケアマネジャーということもあり、サービスの質の向上に力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者は、会議等で利用者の不安が解消され、満足な生活を送ることが利用者の笑顔につながると職員に伝えている。職員は、利用者と良好な関係を作り、利用者楽しく過ごしてもらえるように意識して取り組んでいる。散歩や外食、買い物、自宅など利用者の希望があれば出来る限り出掛けている。外出を強く希望する利用者に対して、一緒に外出して、その方の行動を把握することで一人で外出できるようにした。代表者は、色々な意見を聞きたいと考えて定期的に評価機関を変えている。評価結果を運営推進会議に報告して話し合っている。運営推進会議のメンバーや家族、評価機関など様々な意見を取り入れて、運営に活かしていきたいと考え取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に掲げてある運営理念「信頼関係は笑顔で築かれ、サービスの質は笑顔で評価される」どおりグループホーム内はもちろん住んでいるこの地域に向けても笑顔を絶やさないようにしている	代表者は、利用者の不安が解消され、満足な生活を送ることが利用者の笑顔につながると説明している。職員は、常に笑顔で接することを心掛けている。散歩や地域の行事に参加した時も笑顔を大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者とスタッフが生活道路を歩いて近くの八百屋まで買物に行き、情報交換をしている。 地域の行事「サマーフェスティバル」「秋祭り」等に参加し、秋祭りでは神輿の休憩場ともなり、子供たちにお菓子やジュースを振る舞う	散歩時や近所の喫茶店、八百屋に出掛けたときに笑顔で挨拶して、話をしている。演芸や傾聴など地域のボランティアを受け入れている。事業所は秋祭りの神輿の中継点となっており、利用者が子供たちにお菓子を配っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ふれあいサロンに出向いて健康体操やレクレーションの指導員をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で得られた意見、例えば「家族以外の面会者を家族に知らせて欲しい。お礼を言いたい」を受け、面会者カードに記入していただき、家族に渡すようにした	会議で出された意見を職員間で話し合い、運営に取り入れた事例もある。代表者は、積極的に意見交換を行いたいと考え、メンバーに事前にテーマなど伝えて出席を依頼しているが協力が得られていない。	運営推進会議の議事録などを欠席されたメンバーや家族、地域の方々の方々に公表したり、開催日時や内容を工夫したりして、活発な意見交換が出来るように継続した働き掛けを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢福祉課から担当者が必ず運営推進会議に参加され、毎回情報交換したり指示を受けたりして協力関係を築いている	市の担当者を訪問し、事業所の現状報告や困難事例などの相談を行っている。市の担当者から「認知症の方が住みやすい街づくりキャンペーン」への協力依頼があり参加した。地域包括支援センターの職員が来訪することもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関やその他の出入り口を開放している 過去に安全確保のため一時的にベッド柵をした事があるが、現在は無い	具体的な事例から、職員間で話し合って身体拘束を行わないように取り組んでいる。外出を強く希望する利用者に対して、一緒に外出して、その方の行動を把握することで、一人で外出できるようになった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	運営推進会議とスタッフの勉強会で、どんな行為が虐待になるのか、どうすれば虐待を防止できるかについて学んで、お互いに虐待をチェックし合っている		

グループホーム ささゆり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2008年まで成年後見制度を利用していた方があり、管理者とスタッフは制度について理解している。研修も受け、日頃感じている疑問を質問したこともあった。新しい職員は制度について知らないもので、制度を利用している方が入居された時勉強会を行う		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時入居者と家族に十分な説明をし、理解と納得された上で署名捺印を受けている 入居者や家族からの質問を常時受け付け、信頼関係を継続できるよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談箱を設置したり、家族の来訪時には意見要望を聞くようにして、解決の努力をしている。その情報をスタッフ会議で共有している 入居者の要望はその場で実現している	通信を毎月発行し、利用者や家族から事業所の取り組みなど意見や要望が聞けるように工夫している。家族の来訪時に、職員から声を掛けて、意見や要望を聞いている。代表者の連絡先も伝えて要望等を言いやすいように工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2月に1回開催されるスタッフ会議で、スタッフが運営に関して意見や提案する機会があり、普段でも言える雰囲気にある。また、改善方法を管理者とスタッフで決定している	スタッフ会議において出された意見や要望等を全員で検討して、運営に反映させている。代表者は、日頃から職員の意見・要望を聞いており、勤務時間や希望の休み、待遇などを見直し、働きやすい職場となるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、雇用管理責任者の講習を受けて、管理者や職員の努力や工夫にねぎらいの言葉をかけ、介護職員処遇改善加算金受給の手続きをし、就業意欲が高まるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	向上心のあるスタッフに対して、研修会の参加費を負担し、研修結果をグループホーム内に還元できるよう協力している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、岐阜県グループホーム協議会の元東濃支部長で、その時培った人脈が情報交換のネットワークになり、交流しながら同業者の良い所を真似てサービスの質の向上を図っている		

グループホーム ささゆり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人は入居時非常に不安になるので、声掛けなど頻繁にコミュニケーションを取り信頼関係を築いている。他の入居者に気を遣わなくても良い散歩や入浴時にも、会話の中から心配事を聞き洩らさないようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時に、家族の思い・グループホームの役割等の意見交換をし、家族との信頼関係を構築している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族からの現状や要望等を聞き取り、ニーズを見極めサービス提供をしているグループホームのサービス以外のニーズがある場合、家族と相談の上速やかに実施している。例えば訪問診療を実施しています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは入居者を人生の先輩として尊敬し、料理方法の教をを請うこともあり、家族のような関係を築いて、常に安心して過ごしてもらえるように努力している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、病院の送迎・介護用品や消耗品の補充など、家族に出来ることは家族がするのが原則ですが、強制はしていません。病院の付き添いの際は家族水入らずで外食してから帰ってくる。そして入居者はそれを楽しみにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が訪問された時、入居者は生き生きし一瞬に満面笑顔になる また一時帰宅を希望する入居者や馴染みの人に会いたいと言う入居者を、車で送迎している	利用者の希望で、自宅や馴染みの店に出掛けている。事前に利用者の自宅や知人宅に連絡して出掛けることもある。友人、知人が来訪された時は、再訪のお願いをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合わない入居者同士は、席を離しトラブルを避けるようにし、ADLの低い人の隣に自立に近い人の席を置き、入居者同士が支え合えるような環境作りをしている		

グループホーム ささゆり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても次の介護施設、入院先、自宅等を訪問し環境が変わって困ってみえないか相談に乗っている。スーパーなどで家族に出会うことがあり、相談を受けることがしばしばある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	テレビを見ていて「お鮎が食べたくなつたわ」「今日のお昼は回転寿司に行きましょうか」「まあ嬉しい」「私も連れて行ってもらえるかしら」「もちろんです。皆で行きますよ」	利用者の自然に発する言葉や会話から思いや意向の把握に努めている。困難な利用者からは、表情や手の動き等から職員間で検討している。得られた思いや意向は申し送りノートに記録し職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等は本人、家族等から情報収集し申し送りノートに記載しスタッフで情報を共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの暮らしの現状を把握し、申し送りノートに記載しスタッフで情報を共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が介護計画原案を立て、本人家族を交えサービス担当者会議で修正し介護計画を実施している。また計画作成担当者がスタッフに聞き取りをしながらモニタリングしている	介護計画は、計画作成担当者が家族や職員から意見を聞き案を作成している。モニタリングは、計画作成担当者が職員に確認して行っている。介護計画に即した内容を記録したり、職員間で積極的に話し合うことが出来ていない。	利用者の生活を大切にして、関係者の意見やアイデア、気づきを反映した介護計画、モニタリングとなるように工夫して欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、申し送りノートにより入居者一人ひとりの情報をスタッフが共有し、その情報に基づいて支援している。介護計画の見直しにもこの情報は利用されている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生ずるニーズに対応してケアプランを立て支援しているが、生活そのものを支援するには当然介護保険サービスに上らないことも出てくるので、人道的な観点で臨機応変に対応している		

グループホーム ささゆり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	心豊かに楽しく暮らしていく上で傾聴ボランティア、民生児童委員、消防署、中学校や高等学校のボランティア学生の協力を得たり、社会福祉協議会主催の福祉祭りには利用者の作品を展示して、生きがいを持って暮らしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診送迎は原則家族がすることになっているが家族の都合や緊急の場合事業所で家族の同意を得ながら送迎している。この時介護記録をかかりつけ医に見せるようにしていることで、信頼関係が築けている	利用者や家族の希望によりかかりつけ医・協力医を選んでいる。受診は家族が行っているが、職員が対応することもある。家族に利用者の状態を書面で渡して、結果を聞いている。緊急時は事業所よりかかりつけ医に連絡して対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職が便秘の状態を看護職に伝え、その症状が医師にも伝わり、適切な薬が処方された		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の緊急入院時にはスタッフが付き添い、家族が到着するまでの間に病院関係者と情報交換し、また早期退院に向けての受け入れ態勢を整えている。市内総合病院を何度も利用している間に医療相談員とは良好な信頼関係にある		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	アセスメント時の本人・家族の意向は大多数が「お任せします」であるが、その場になると意向が変わる可能性があるため、何度も話し合いが必要になる。特養への申し込みを勧める場合もある。今迄家族から看取りの希望はなく、終末期は家族と相談して医療機関に搬送してきた	利用時に、重度化や終末期に向けた事業所の方針を説明し同意を得ている。利用者の状態の変化時には、家族の意向に出来るだけ沿えるように話し合い、医療機関と連携を取って支援する体制となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の応急手当やAEDの講習会に参加している 急変時は訪問診療の医師や主治医に指示を仰いでいる 転倒等の事故は接骨院に相談している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の防災訓練や市の防災課の研修で、避難路、避難方法、保存食の指導を受けている、近隣住民とも友好な関係にあるので、災害時には助け合える。スプリンクラーと自動火災報知設備を設置している	職員は、消防署で行われた防災訓練に参加している。近隣の住民から、災害時に協力の承諾が得られている。年2回避難訓練を行っているが、夜間を想定した訓練が行われていなかった。非常食の備蓄もされていなかった。	消防署に相談して、夜間を想定した避難訓練の実施や非常食の準備など災害対策の見直しをすることを期待したい。

グループホーム ささゆり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として一人ひとりを尊敬し、「言葉使いの適正に関する評価基準」に沿って丁寧な言葉を掛けている。プライバシー保護については、介護記録に本人以外の個人名を記載する場合、イニシャルであらわすような注意をはらい、他人に知られないように気を配っている	利用者の尊厳を守るため、事業所独自に言葉掛けの基準表を作成している。利用者とは良好な関係を築き、誇りを損ねないような会話を心掛けている。職員は、外出した時は声のトーンに注意するなどプライバシーの確保に気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者がどの服を着ようか迷われている時、選択肢を2つに絞り決めやすくしている スタッフの好みで一方向的に勧めず、納得して決定されることに重点を置いている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の決まりやスタッフの都合を押し付けるのではなく、本人の生活習慣と希望に合わせて支援している しかし、居室に閉じ籠りっ放しの方に対しては気分を損ねないように共同空間へ誘い出します		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ほとんどの入居者がささゆりでの調髪を希望されていますので、2ヶ月に1回程度ホーム内で好みの髪型にカットしています。家族との外出時に気に入った衣服や化粧品を購入される方もみえます。外出時の服装は一緒に選んでいます		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	能力に応じて、サンドイッチ・ほう葉ずし・ホットドッグ・お好み焼き等をスタッフと一緒に作り、自分の作ったものは自分で食べる楽しさを味わった。後片付けもしている	ユニット毎に利用者の希望を聞いて献立を作っている。近所の八百屋まで利用者と一緒に食材を買いに行っている。配膳や栗きんとん作りなど利用者は出来ることを手伝っている。誕生日は、外食や献立など利用者の希望を取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べた量と水分摂取量を介護記録に記入している 食後に、食餌の量や硬さ、味加減を聞き反省材料にしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方の能力に応じてスタッフが声かけをしながら、義歯及び口腔内の清潔を保っています 口腔内に異常があれば、家族に連絡し早めに歯科を受診していただきます		

グループホーム ささゆり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導している 失敗時には他の入居者に悟られないように、小声で処理している	オムツは一時的と考え、ポータブルトイレは使用せずに昼夜を問わずトイレに誘導している。排泄パターンを把握し、個別の対応を話し合っ、自立支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	習慣的に便秘の方はヤクルトの定期購入をされます。食餌、水分摂取、運動で便秘予防に努めています 強度な便秘の場合、医師に相談し指示を仰ぎます		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には、日中午後、隔日週3回の入浴になっているが、体調や希望を考慮に入れている 浴室からは入居者とスタッフの楽しい会話や笑い声が聞こえてくる	週3日を基本としているが、希望により毎日入浴している利用者もある。入浴の時間や順番、湯温など利用者の希望に合わせている。気の合う職員が介助したり、歌を歌ったり、会話を楽しんだりして楽しい入浴となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は個々の入居者にまかせている 昼間、ウトウトされている方には居室で休まれること勧め、季節や気温に応じてエアコンを使用している。 ホッカイロ、湯たんぽ、アイスノン等も就寝時使用する		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が薬について理解しているとは言えないが、錠剤が口の中へ入り飲み込むまで目視で確認している 症状に変化があれば主治医に相談し、指示を受ける		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味、楽しみ事が多種多様で対応に苦慮している テーブル拭き、新聞折り、洗濯物の取り入れやたたむ手伝いをされた時には必ずねぎらいの言葉をかけるようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者さんは減多に希望を言われないが、ドライブ、花見、紅葉狩り、散歩、地区のお祭りに出かける支援をしている 希望を言われた時は実現させる	天気が良ければ声を掛けて、散歩に出掛けしている。利用者の希望で、個別に喫茶店や外食、買い物などに外出することもある。福祉まつりや外食など事業所から家族に声を掛けて一緒に外出される方もある。	

グループホーム ささゆり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則所持金素持つことを認めていませんが、少数の方が自分で現金を所持し管理している 財布を持つことは安心につながるようです		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「一日に何度も何度も電話をかけないで」「用もないのに電話しないで」と苦情が家族知人から多数ありましたので入居者からの電話は控えるようにしています 写真と共に季節の挨拶や贈り物のお礼の手紙を代筆している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く快適である トイレや居室が分からなくて混乱している方にはスタッフが付き添い、安心できるような話題のお喋りをしながら誘導している	リビングには、季節の貼り絵などが飾られている。テーブルは、散歩の時に摘まれた草花が生けられている。リビングに面した広いウッドデッキには、椅子やソファがあり、気持ち良く自由に過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラスのソファに座って外を眺めている人 一生懸命ジグソーパズルを解いている人 同じ話題を何度も繰り返して話している人たち 同じ屋根の下でそれぞれが思い思いに過ごしてみえます		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要最低限の生活必需品だけを居室に持ちこんでいる人も装飾品や好みの品を入れている人も快適に過ごしてみえます	居室には、テレビや筆筒、姿見、化粧道具、椅子など使い慣れたものが置かれている。利用者や家族と相談して、孫の写真や作品、昔に描いた自画像のデッサンを飾り、落ち着いて過ごせる居室となるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレへ誘導の場合、スタッフはそれぞれの入居者に対して自立歩行・杖歩行・見守り・手引き歩行・車いす移動と各々の出来る能力に応じて支援する事によって、入居者は安全で不安のない生活を送っている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171600287		
法人名	有限会社 エスランケア		
事業所名	グループホーム ささゆり (南ホーム)		
所在地	岐阜県 瑞浪市 南小田町 3丁目300番地		
自己評価作成日	平成27年8月1日	評価結果市町村受理日	平成27年11月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2015_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2171600287-00&PrEfCd=21&Versi_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成27年9月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に掲げてある運営理念「信頼関係は笑顔で築かれ、サービスの質は笑顔で評価される」どおりグループホーム内はもちろん住んでいるこの地域に向けても笑顔を絶やさないようにしている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者とスタッフが生活道路を歩いて近くの八百屋まで買物に行き、世間話をしている。 地域の行事「サマーフェスティバル」「秋祭り」等に参加し、秋祭りでは神輿の休憩場ともなり、子供たちにお菓子やジュースを振る舞う		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ふれあいサロンに出向いて健康体操やレクレーションの指導員をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で得られた意見、例えば「家族以外の面会者を家族に知らせて欲しい。お礼を言いたい」を受け、面会者カードに記入していただき、家族に渡すようにした		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢福祉課から担当者が必ず運営推進会議に参加され、毎回情報交換したり指示を受けたりして協力関係を築いている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全確保のためベッド柵をした事があるが、この事例をに付いてスタッフ会議で切迫性・非代替性・一時性について検討した 日中は玄関を開放している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	運営推進会議とスタッフの勉強会で、どんな行為が虐待になるのか、どうすれば虐待を防止できるかについて学んで、お互いに虐待をチェックし合っている		

グループホーム ささゆり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2008年まで成年後見制度を利用していた方があり、管理者とスタッフは制度について理解している。研修も受け、日頃感じている疑問を質問したこともあった。新しい職員は制度について知らないもので、制度を利用している方が入居された時勉強会を行う		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時入居者と家族に十分な説明をし、理解と納得された上で署名捺印を受けている 入居者や家族からの質問を常時受け付け、信頼関係を継続できるよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談箱を設置したり、家族の来訪時には意見要望を聞くようにして、解決の努力をしている。代表者及び管理者の携帯電話の番号を家族に知らせて、いつでも意見を聴く体制を取っている 入居者の要望はその場で実現している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2月に1回開催されるスタッフ会議で、スタッフが運営に関して意見や提案する機会があり、普段でも言える雰囲気にある。また、改善方法を管理者とスタッフで決定している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、雇用管理責任者の講習を受けて、管理者や職員の努力や工夫にねぎらいの言葉をかけ、介護職員処遇改善加算金受給の手続きをし、就業意欲が高まるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	向上心のあるスタッフに対して、研修会の参加費を負担し、研修結果をグループホーム内に還元できるよう協力している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、岐阜県グループホーム協議会の元東濃支部長で、その時培った人脈が情報交換のネットワークになり、交流しながら同業者の良い所を真似てサービスの質の向上を図っている		

グループホーム ささゆり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は誰でも不安なので、声掛けなど頻りにコミュニケーションを取り信頼関係を築いている。散歩や買い物等の外出時にも、会話の中から心配事を聞き取るようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の説明の際、家族が感じている不安や心配な点、要望をよく聞き、それに応えて安心して利用できるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族からの現状や要望等を聞き取り、ニーズを見極めサービス提供をしているグループホームのサービス以外のニーズがある場合、家族と相談の上速やかに実施している。例えば訪問診療を実施しています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは入居者を人生の先輩として尊敬し、料理方法の教をを請うこともあり、家族のような関係を築き、常に安心して過ごせるように努力している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、病院の送迎・介護用品や消耗品の補充など、家族に出来ることは家族がするのが原則ですが、強制はしていません。病院の付き添いの際は家族水入らずで外食してから帰ってくる。そして入居者はそれを楽しみにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が訪問された時、入居者は生き生きし一瞬に満面笑顔になる また一時帰宅を希望する入居者や馴染みの人に会いたいと言う入居者を、車で送迎している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合わない入居者同士は、席を離しトラブルを避けるようにし、ADLの低い人の隣に自立に近い人の席を置き、入居者同士が支え合えるような環境作りをしている		

グループホーム ささゆり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても次の介護施設、入院先、自宅等を訪問し環境が変わって困ってみえないか相談に乗っている。スーパーなどで家族に出会うことがあり、相談を受けることがしばしばある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	テレビを見ていて「お鮎が食べなくなったわ」「今日のお昼は回転寿司に行きましょうか」「まあ嬉しい」「私も連れて行ってもらえるかしら」「もちろんです。皆で行きますよ」		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等は本人、家族等から情報収集しケアプランを作成しスタッフで情報を共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの暮らしの現状を把握し、申し送りノートに記載しスタッフで情報を共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が介護計画原案を立て、本人家族を交えサービス担当者会議で修正し介護計画を実施している。また計画作成担当者がスタッフに聞き取りをしながらモニタリングしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、申し送りノートにより入居者一人ひとりの情報をスタッフが共有し、その情報に基づいて支援している。介護計画の見直しにもこの情報は利用されている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応してケアプランを立て支援しているが、生活そのものを支援するには当然介護保険サービスに上らないことも出てくるので、人道的な観点で臨機応変に対応している		

グループホーム ささゆり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	心豊かに楽しく暮らしていく上で傾聴ボランティア、演芸ボランティア、消防署、中学校や高等学校のボランティア学生の協力を得たり、社会福祉協議会主催の福祉祭りには利用者の作品を展示して、生きがいを持って暮らしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診送迎は原則家族がすることになっているが家族の都合や緊急の場合事業所で家族の同意を得ながら送迎している。この時介護記録をかかりつけ医に見せるようにしていることで、信頼関係が築けている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職が発熱の状態を看護職に伝え、その症状が医師にも伝わり、適切な処置がされた		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の緊急入院時にはスタッフが付き添い、家族が到着するまでの間に病院関係者と情報交換し、また早期退院に向けての受け入れ態勢を整えている。市内総合病院を何度も利用している間に医療相談員とは良好な信頼関係にある		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	アセスメント時の本人・家族の意向は大多数が「お任せします」であるが、その場になると意向が変わる可能性があるため、何度も話し合いが必要になる。特養への申し込みを勧める場合もある。今迄家族から看取りの希望はなく、終末期は家族と相談して医療機関に搬送してきた		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の応急手当やAEDの講習会に参加している 急変時は訪問診療の医師や主治医に指示を仰いでいる 転倒等の事故は接骨院に相談している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の防災訓練や市の防災課の研修で、避難路、避難方法、保存食の指導を受けている、近隣住民とも友好的な関係にあるので、災害時には助け合える。スプリンクラーと自動火災報知設備を設置している		

グループホーム ささゆり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として一人ひとりを尊敬し、「言葉使いの適正に関する評価基準」に沿って丁寧な言葉を掛けている。プライバシー保護については、介護記録に本人以外の個人名を記載する場合は、イニシャルであらわすような注意をはらい、他人に知られないように気を配っている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者がどの服を着ようか迷われている時、選択肢を2つに絞り決めやすくしている スタッフの好みで一方向的に勧めず、納得して決定されることに重点を置いている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の決まりやスタッフの都合を押し付けるのではなく、本人の生活習慣と希望に合わせて支援している しかし、居室に閉じ籠りっ放しの方に対しては気分を損ねないように共同空間へ誘い出します		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ほとんどの入居者がささゆりでの調髪を希望されていますので、2ヶ月に1回程度ホーム内で好みの髪型にカットしています。家族との外出時に気に入った衣服や化粧品を購入される方もみえます。外出時の服装は一緒に選んでいます		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい料理を聞けば、カレーライス、ちらし寿司、焼きそばが定番で、それらを交えながら一緒に食材の下準備、テーブル拭き、下膳を出来る方としている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べた量と水分摂取量を介護記録に記入している 食後に、食餌の量や硬さ、味加減を聞き反省材料にしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方の能力に応じてスタッフが声かけをしながら、義歯及び口腔内の清潔を保っています 口腔内に異常があれば、家族に連絡し早めに歯科を受診していただきます		

グループホーム ささゆり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを排泄記録で把握し、声掛けやトイレ誘導を行っている。失敗されても傷付かれないように支援している。おむつを外せるような方向で支援をしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘は認知症の周辺症状を引き起こす原因になるので、食物繊維の多い野菜を多く食材に取り入れ、適度な水分摂取を確認し、散歩や体操をして予防しているが、それでも便秘になられた方はかかりつけ医に相談している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には、日中午後、隔日週3回の入浴になっているが、熱湯が好きな人、長湯が好きな人、入浴拒否を含め一人ひとりの希望に合わせて柔軟に対応している。個々に入浴希望時間をお聞きしているが、現状に不満を言われる方はいない		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は個々の入居者にまかせている 昼間、ウトウトされている方には居室で休まれること勧め、季節や気温に応じてエアコンを使用している。ホッカイロ、湯たんぽ、アイスノン等も就寝時使用する		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が薬について理解しているとは言えないが、錠剤が口の中へ入り飲み込むまで目視で確認している 症状に変化があれば主治医に相談し、指示を受ける		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーブルを拭いたり、絵を描いたり、はり絵をしたり、畑仕事に楽しみを見出し、散歩や外出で気晴らしをしてみえます。喜びや楽しみを見出せない人に対して、職員は頻りに話しかけるようにしています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者さんは滅多に希望を言われないが、ドライブ、花見、紅葉狩り、散歩、地区のお祭りに出かける支援をしている 「何処へ行きたいですか？」と聞くと「あの世」と返事される		

グループホーム ささゆり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則所持金素持つことを認めていませんが、少数の方が自分で現金を所持し管理している 財布を持つことは安心につながるようです		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「一日に何度も何度も電話をかけないで」「用もないのに電話しないで」と苦情が家族知人から多数ありましたので入居者からの電話は控えるようにしています 写真と共に季節の挨拶や贈り物のお礼の手紙を代筆している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	今年の夏は、例年に比べて暑いようで節電を気にしながらエアコンを入れている。食堂のテーブルの輪差しには、散歩の途中入居者が摘んできた名前の分からない野の花が飾っており、さりげなく季節感をかもし出している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人でテレビを観ている男性。少し離れたテーブルの周りでおしゃべりに興じている女性軍。同じ屋根の下でそれぞれが思い思いに過ごしてみえます		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の説明の時に、新しく買わなくても使い慣れた生活用品をお持ち下さいと伝えています。例えばテレビや扇風機を入れて、今まで通りの生活を継続している方もみえます		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内の動線上には手すりや安全に移動でき、常時職員が見守り声掛けをしているので途惑いパニックになることはない、他人の居室に入ってしまう人には表札を設置し声掛けをしている		